

令和2年度 交流観光まちづくりプラン推進会議会議録【全文(一部意識)】

1. 開催日時 令和3年3月16日(火) 午後2時から午後3時30分
2. 開催場所 南砺市役所福野庁舎 講堂
3. 出席者 ○委員9名
中嶋勝彦委員、米田聡委員(代理出席)、北清俊一委員、武田彰委員、日野淳一委員、草木健委員、平野信一委員、上田明美委員、中道真由美委員、
○事務局4名
大橋交流観光まちづくり課長、野村ブランドプロモーション・交流係長、浅田主査、吉岡主事
4. 欠席者 高橋光幸委員長、宮崎一郎委員、正保治委員、岡部智美委員、山本誠一委員、竹中雅裕委員、此尾治和委員
5. 傍聴者
6. 議題
報告事項
1) 南砺市観光統計について
2) 令和2年度事業について
協議事項
1) 南砺市ウィズ・コロナ観光振興基本方針の策定について
2) 交流観光まちづくりプラン基本的戦略等の見直しについて

○開会 午後2時00分

【事務局】

令和2年度交流観光まちづくりプラン推進会議を開催する。本日は高橋委員長が急遽欠席であり、副委員長を定めていないため、議事進行は事務局で進めさせていただく。この1年は新型コロナウイルス感染症により多くの事業者の経営が厳しくなっている。そのためこのコロナ禍を打開すべく、ウィズ・コロナ、アフターコロナ時代を皆さんの意見を参考に戦術を練り、交流観光まちづくりプランに落とし込んでいきたい。来年度の事業においても新型コロナウイルスの影響を鑑みた経済対策を案として提案しているため、忌憚のない意見を求めたい。本日の資料に関しては事前に送付している。このたび新規に選任された委員を口頭で紹介させていただく。富山県となみ野観光連盟会長武田彰委員。東日本旅客鉄道株式会社北陸営業センター所長日野淳一委員。加越能バス株式会社自動車部長草木健委員。本日欠席の南砺市観光協会理事岡部智美委員。以上、4名となる。また、新たに選任された委員に田中市長から委嘱状を交付する。

それでは次第に沿って進めさせていただく。報告事項1の「観光統計について」及び報告事項2「令和2年度事業について」事務局より説明させていただく。

(事務局より報告事項について説明)

【事務局】

観光ガイドの状況を参考に説明願いたい。

【A 委員】

南砺市観光ガイド連絡協議会の事務局は観光協会になるため、福光の観光ガイドの状況にのみ報告する。令和元年度までは年に30～35件、月に換算すると2～3件ほどの依頼があったが、令和2年度は2件の依頼になった。

【事務局】

新型コロナウイルス感染症の影響で、人の動きが全くなくなっている状況である。昨年度は経済対策について観光協会をはじめとする関係団体と協議し、実施してきた。報告事項について質問、意見があれば願いたい。

【B 委員】

インターネットを確認したところ、東京神楽坂ににゃんと市観光協会というものがあるが、東京神楽坂とはどのような関係か。

【C 委員】

東京オリンピックが昨年開催される予定であったため、それに合わせて都内のイベントを複数考えていた。神楽坂では郷土芸能を発信していく取り組みが行われており、その中で城端の庵唄を毎年発表しており、好評を博している。もともと庵唄のルーツが江戸端唄のため6～7年前から呼んでいただいております、交流が生まれた。

【B 委員】

神楽坂は今も伝統芸能が守られている土地で交流はとても良いと思う。今伺ったのは、神楽坂のすぐそばで事務所を構える井波出身の若者がおり、井波と神楽坂をつなげる活動を行っていたため関係があるかと思ったためである。このような取り組みがあることを彼にも伝えたい。

【事務局】

その他に報告事項に関して質問がなければ、協議事項に移らせていただく。観光全体のことについては後ほど意見交換の場を設ける。

協議事項1「南砺市ウィズ・コロナ観光振興基本方針の策定について」及び協議事項2「交流観光まちづくりプラン基本的戦略等の見直しについて」を事務局より説明させていただきます。

(事務局より報告事項について説明)

【事務局】

協議事項について、ご意見があればお願いしたい。ウィズ・コロナ期において事務局としては交流観光まちづくりプランに基づいて観光関連団体や事業者を含めて協議し、新型コロナウイルスの経済対策を行ってきた。新型コロナウイルスの終息時期などは不透明ではあるが、今できることや課題について柔軟に対応し、交流観光まちづくりプランの実現に向けて忌憚のないご意見をいただきたい。

【D 委員】

感染予防対策だが、事業者の意識によって対策に差があるように感じられる。安心安全を徹底するために補助金を交付するなどして感染予防の最低ラインを保証できるようにすべき。事業者は現在も注力していると思うが、さらなる注力がもとめられる。

【事務局】

実際に宿を経営している事業者の意見として、E委員は今年度を振り返っていかがだったか。

【E 委員】

新型コロナウイルス感染症の拡大が始まり、令和2年3月～5月の予約は全てキャンセルになった。4～5月の売り上げがほぼなかった。対策としてテイクアウトを実施したが売れ残りが多く、現在は予約制にすることで何とか売り上げが出るようになった。その後、県の「地元泊まろうキャンペーン」や南砺市の「プレミアム宿泊キャンペーン」などの取組があり、少し持ち直しているが補助がなくなったことを考えると不安である。また、感染対策用品の購入時に市から助成を受けた。これまで大きな収入源となっていた宴会が中止や縮小開催となっているため今後が不安である。

【事務局】

安心・安全笑顔の宿キャンペーンに参加された事業者の方には、新型コロナウイルス対策のかさ上げを行った。また、令和2年度は南砺市観光協会を筆頭に、宿泊者だけでなく事

業者の安心・安全も担保すること1番に事業に取り組んでいただいたと認識している。その中で、地元の宿泊施設や観光地の新たな魅力を発見につながったというお声もいただいている。令和3年度においても地元の魅力再発見につながり、かつ制約の多い新しい生活様式の中で利益を上げるためにどのように取り組んでいけばいいのか考えていきたい。また、令和3年度もそのための予算化を行っている。

【A 委員】

資料3-3「市民のおもてなし力づくり」においてマイクロツーリズムを通じた地元観光資源の再発見の記述があるが、南砺市は範囲が広く難しいところがある。資料では具体例として閑乗寺公園が上げられているが、そのほかにはあるのか。縄が池や歴史の道など制定されるまでは手厚く補助されたが、その後は特に動きもなく、南砺市がどのように進んでいきたいのかが見えない。交流観光まちづくり課だけでなく商工課や観光協会を巻き込んで、事業を進めていく必要があるように思う。今の南砺市の観光の柱は世界遺産五箇山合掌造り集落と日本遺産のまち・井波になっているが、それ以外のことについてももっと力を入れて取り組んでいくべき。地元のことを市民がもっと知ることとはとても大切である。縄が池は昭和天皇が自ら希望し来訪された場所であった。城端駅の看板にも記載されていたが、すでに古くなっており、見えなくなっているため対処してほしい。

【C 委員】

事前にB委員から観光協会との連携が見えにくいというご指摘いただいているが、観光協会は大きく本部と支部に分かれている。本部は主に外部への発信を行い、支部は地域の素材を発見・磨き上げしていくことが仕事であると思う。いまこそ地域支部が頑張る時だと考えている。縄が池には行きたくてもいけない人が多くいる。行きたい人を集め、バスを借りていくなどやり方は多くある。支部と一緒に検討したい。

【A 委員】

福光支部が桜のライトアップだけではないということを見せていきたい。

【事務局】

様々な意見あると思うが、先に基本方針の戦略等の見直しについてご意見をいただきたい。なにか修正箇所等はあるだろうか。

【C 委員】

資料3-2についてだが、全体的に現状の課題を踏まえつつよくまとめられていると思う。言葉の表現では、「おもてなしの力づくり」という言葉は少し曖昧である。例えば、「civic pride」、「市民の地元愛醸成」というような言葉がよいと思う。市民が地元を好き

になることでおもてなしの力は強くなる。「南砺のことをよく知る」「南砺のことを好きになる」「南砺のことを自慢する」この3つが大切である。この3つが達成されると自然と南砺にいらっしゃったお客様が愛おしくなる。それこそがおもてなしの力である。

【事務局】

現在は新型コロナウイルスの影響で、人となるべく接しないように宿泊して、そのまま帰ることでリスク軽減を行う場合もある。しかし、新型コロナウイルス感染症終息後には人と人が対面する時代が戻ってくると信じて、その時にいらっしゃったお客様に対し自らの言葉でおもてなしができるように、これを機に地元を大切にしてもらいたいと思っている。

【B 委員】

先ほどの A 委員や C 委員のマイクロツーリズムや地元愛に関する発言は、本当にその通りだと思う。外から見ていると南砺市にはいいものがたくさんある。しかし地元の人をそれをあまり理解していない。南砺市は魅力が多くあるため、テレビにもよく取り上げられている。ぜひ、地元をよく知り、利用してほしい。また、観光には個人と団体で大きく2つに分けられるが、これからは個人客を対象にした受入環境を作ることがとても大切である。個人観光客の多くは滞在時間も長く、宿泊もしてくれ、他と違ったそこにしかない魅力を求めている。特にリタイアしている人が多い。情報発信においては、それぞれでは発信しているものの、まとまったサイトがないと思う。個人の Youtuber の発信力が高いこともあるため、連携していくとよい。これからの観光施策には ICT 活用が必須である。現地で QR コードを読むと案内が読めるなど積極的な活用が求められる。数年先を予想して観光施策に取り組んでもらえばと思う。また、市の一般会計にお金が入るようなふるさと納税ではなく、特定の地域を支援できるようなふるさと納税の制度を作ってほしい。さらに、この会議の招集を現状郵便で行っているが、可能な人には E-mail でよいと思う。

【事務局】

いくつか意見をいただいた中で、スマホを使った自動翻訳などは、観光庁で推奨している「ボイストラ」というアプリがある。インバウンドセミナーなどを通して観光協会によって紹介してもらっているため、活用しながら対応していきたい。WEB での発信の仕方は、発信が難しいものの、SNS が若者世代を中心に普及しているため、活用していきたい。また、ふるさと納税に関しては、南砺市でもプロジェクトを立ち上げ、ふるさと納税企業版で取り組んでいる。

【事務局】

様々な意見いただいているが、基本戦略という点においては、「市民の地元愛醸成」をおもてなしの記述に盛り込み、まとめてよろしいか。

【F 委員】

今回交流観光まちづくりプランを見直すということだが、わざわざ with コロナなど書くのではなく、新型コロナウイルス感染症が契機となって足並みがそろっていなかったものが一気に進んだということで、プランを見直したとした方が良いのではないか。今までの観光プランの中にも、ほかの観光地や宿泊業者との差別化をするために付加価値をつけるといふ議論が出ていた。このような書き方だと、新型コロナウイルス感染症へのいろいろな対策を行うためにお金がかかるので、宿泊料金、運賃を値上げしたいがお客様が納得するような説明を考えなければ、という風に見えてしまう。高付加価値というものは最後は人だという話がある。高付加価値追及のために今更バスを新しくするのは難しいし、旅館においても営業しながら改装などは難しい。事業者にとっては高付加価値と一言言われても難しい。三密という言葉も政府が新しい生活様式を定着させるために作った言葉であるが、現在は言葉が独り歩きしている。そういった言葉に観光プランが振り回される必要はない。あまりにも新型コロナウイルス感染症の影響を恐れすぎている。やはり、基本方針なので、振り回されないようにすればよく、付随するものとして新型コロナウイルスの対策をとればよいと思う。

【事務局】

F委員の発言を含めて、資料3-2の基本コンセプトには「コロナの終息状況に」と前置きはあるものの、柔軟に追加修正していく構造になっている。

【B 委員】

字句にこだわるようであれば、資料3-4の2で日本遺産・井波及び五箇山和紙を追記してほしい。

【事務局】

日本遺産・井波は追記したい。五箇山和紙に関しては、伝統工芸の別の項目に属するため記載は控えさせていただく。

【F 委員】

交通ネットワークに関して、国の地域公共交通補助金の考え方が変わり、バスの購入でこれまで得ることができた補助金がなくなった。その代わりに、自治体の購入では補助が出るようになっている。これまではバスに対して補助金を出す代わりに、補助路線の走行が義務付けられていたが、補助要綱に該当しないものはすべて補助されなくなった。現在世界

遺産バスが運行しているが、新型コロナウイルスの影響で現在補助要綱の適用から外れており、特例として認められはしたものの、1年の特例立法なため、今後補助要綱から外れる可能性がある。公共交通の仕方が大きく変わってしまっていることを理解してほしい。

【事務局】

公共交通というカテゴリから、G委員の発言を伺いたい。

【G委員】

首都圏から観光客を連れてくることができないため、あまり役割を果たせておらず申し訳ない。先ほどのお話の中で、三密という言葉があったが、それもまたどんどん変化している。緊急事態宣言前に金沢のツアーを作ったが、大人の休日倶楽部というシニア層向けのものでお客様は大変喜んでいて。施設や電車での感染はほとんど気にしていなかった。変異ウイルスのこともあるため明確な安心などはできないが、一つ一つのものに対して不安は薄らいでいるように感じた。去年と比べ大きく考え方が変わってきている。新幹線としての役割が果たせず、見通しが立っていない状況だが、今できるようなアウトドア関連やサイクリング関連を行っているようなので頑張してほしい。

【A委員】

NHKのテレビで文化財関係を観光に生かせないかという取り組みを見たが、南砺市も世界・文化遺産課と予算や事業等で協力して効率的に行ってほしい。縦割りではなく横の関係のさらなる構築を望む。また、1番気になるのが文化財等を紹介する看板が朽ちていることである。高窪に蓮如上人について記載されている白い石柱が立っているが朽ちている。

【事務局】

具体的な場所等を教えていただければ、文化・世界遺産課に伝える。

【A委員】

了解した。写真を撮影しているので、後日お送りする。立野原や善徳寺周辺はまち歩きすると面白い土地なため、ぜひ整備していただきたい。

【事務局】

「文化」という言葉が出たが、来年度の文化・世界遺産課の予算で民藝が調査されるため、ともに活かしていきたい。

【F委員】

新聞で井波駅の電話ボックスが無くなると報道された際、彫刻施されていると話題になった。ある時は誰も気が付かないが、無くなる時に気が付くことが多い。現在は保管されており、また使用されるようではある。

【B 委員】

NTT 西日本に撤去をやめるように掛け合ったが駄目であった。文化価値も高く、インスタスポットでもあったため、いったん無くなったものの再度復元予定である。なくなってから大切に気が付くということにならないように可能な限りで盛り上げていきたい。

【H 委員】

芸術文化だけではなく、農業も観光につながるのではないか。ワイナリーや田んぼ農園、イチゴ狩りなど南砺市には農業のスポットが多くある。観光に利用しないのはもったいない。また、現在はいちご狩りに来た人は、いちご狩りをした後そのまま家に帰ってしまう。現在はスポットが点在しているだけなので、点を結び線にし、面にしていく取り組みが必要である。南砺市には多くの楽しめるスポットがあるため、事業者それぞれが自分の場所だけでなく南砺市全体の魅力を理解しおすすめできるようになればいいと思う。現在は詳細の説明や紹介を求められるとガイド団体や観光協会に説明をお願いしている。そのように話を振る先を共有できれば良いと思う。

【事務局】

市内での周遊は重要なポイントであると認識している。宿泊キャンペーンの第2弾は旅行者を通じて宿泊業者とタグを組みながら行っていた。干し柿の加工体験と宿の宿泊を合わせたプランなどを作成した。そのようにいろいろな人の知恵を結びつけるような連携を今後も促進していきたい。

【A 委員】

今のところ周遊につながっていないことは本当に残念である。べるもんたに乗って城端まで来て、そのままべるもんたに乗って帰って行かれる方が半分以上である。現地において声がけするも、やはり棟方志功だけではまち歩きしてくださる方は少ない。民藝の調査がこれから行われることであるし、棟方祭りも行っているため、観光協会と協力し誘客につながればと思っている。城端福光はまち歩きすると面白い場所であるが、あまり認知されていないように感じる。

【事務局】

食というキーワードがあるが、その点についてI委員の発言を願いたい。

【I 委員】

昨年、まれ人の家を東京のデザイナーと企画し実施した。新型コロナウイルスの影響があったが昨年10月にオープンし、3か月営業し、冬季休業に入った。利用する人は毎週末、全国各地からいらっしやった。今年も4月オープンの予定が、3月から予約が入り、3月は5組ほど宿泊予定である。近隣にLevoがオープンしたため、食事はLevoで、宿泊はまれ人の家というつながりができている。新型コロナウイルス感染症が蔓延している中で、都会から人が来る状況が不安である。現在は宿泊客の方との接触は避けて営業している。

【事務局】

皆様の発言の中で近況などを共有できたと思っている。基本戦略等の見直しに関しては、いただいたご意見を踏まえ、事務局で修正を加えていきたいと思う。異論がなければ、議会などにも提出し、修正を行っていく。その他事項として、何か共有しておきたい事項などはあるか。

【C 委員】

観光協会では、金沢からの観光誘導を行いたいと思っている。南砺市が金沢観光の一つの選択肢になればと思っている。そのために、アクセス方法としてお得で便利なフリーパスや、体験メニューとしてなん旅をPRしていきたい。金沢駅観光案内所や金沢の主要ホテルと協力し切符の販売を行っている。新型コロナウイルスの影響は大きいですが、少しずつ売れている。なん旅のパンフレットも新たに作成し、レギュラー商品の定番化を狙っている。念珠作りや和菓子作りというようなものを根付かせていきたい。スポットの商品をこれまで数多く制作してきたが、その場限りなものが多いため定番化できるものから行っていきたい。

【B 委員】

南砺市はテレビに取り上げられることが多いため、放送前に知らせてもらいたい。ネットワークでつながり情報を共有できるようにしたい。同窓会を南砺市で行うと補助が出るというような情報が知られていないため、そのような情報を発信できるようになると思う。先ほどの観光協会の体験メニューの件だが、お寺だと座禅のような体験に2万人もの人が集まる例もある。そのような土徳の文化も同時に発信できればいいと思う。ネットワークの構築は難しいが、つながればいいと思う。

【事務局】

交流観光まちづくりプランがはじまった平成25年当初からスタートアップ事業として「南砺男子」というPRの取り組みを3年間行った。「南砺男子」という表現がジェンダー

の観点から違和感があり、女性の活躍も紹介すればよいとの意見があった。「南砺男子」については伝統工芸や若手の職人を女性の観光客をターゲットにPRしていた。観光戦略の中においてはターゲットを絞ってプロモーションしていくことは大事である。表現で不快感を持たれないように今後は取り組んでいきたい。

【事務局】

今の事務局からの発言に対し何か意見はないか。今後は言葉の表現にも気を付けながら観光施策を実施したいと思う。以上で、第10回交流観光まちづくりプラン推進会議を閉会する。